

明けましておめでどうございませう。

寒波の襲来に伴って、コロナの感染者も増えています。手洗い・うがい・マスクの着用で、この冬を乗り切りましょう。

デイサービス八重桜 本店

「八重桜恒例餅つき大会でわいわいー!」



もうすぐお正月ですので一足先に八重桜では毎年恒例の餅つき大会を開催致しました。今回は、コロナウイルス禍の影響もあり、フェイスシールド・マスク・手袋・ヘアキャップと防護対策万全で実施させていただきました。杵きね・臼うす・もち米を準備し、スタッフの掛け声と一緒にご利用者さま一同の「よいしょっ!!」と気合の入った元気なお声を聴きながらスタッフがつき手のテンポに合わせてつきました。掛け声が速くなったり遅くなったりと、もち米をこねる担当者ご利用者さまが掛け声をぴったり合わせて気分高揚でお過ごしになりました。出来上がったお餅を餅とり粉を付けて引っ付かないように転がし完成。おやつ時に細かく刻んだお餅や甘いおしるこを提供し「甘いわ〜。」と仰られたり、笑みを溢されたりと皆さま美味しそうにお召し上がりになりました(誤嚥の危険性のあるご利用者さまにはおしるこのみの提供をしております)。

「2020年クリスマス会の開催」

八重桜の聖なるイベント「2020年クリスマス会」に、サンタさんやトナカイの衣装を身にまとったスタッフ達が今年もまたまたやってきました。サンタさんやトナカイが、目隠しをしたままピコピコハンマーを握りしめて畳の上で落とし合いを始めたり、いくつかのシュークリームのワサビを入れてロシアンルーレットを始め、ワサビに当たったスタッフが暴れる姿を見て皆さま大盛り上がり。クリスマス会の催し物を一通り楽しまれた後は、サンタさんの背負っている白い背袋の中からプレゼントをお配りして皆さまと一緒にカメラで記念撮影。プレゼントを受け取られたご利用者さまは、嬉しそうに「ありがとう!」のお言葉をいただきました。

最後にワサギやクマが飾られたショートケーキとピンク色のシャンメリーをお召し上がりになりましたご利用者さまからは「可愛い!」「甘くて美味しい!」と見た目や味への大絶賛のお声をいただきました。



認知症専門有料老人ホーム

西 勝康

以前より、介護施設には要介護度のレベルに応じた入居環境が必要だと云ってきているところですが、その理由は比較的軽度な方と、中・重度の方では暮らし方が全く違うからです。この考えを一步進めると、認知症の方にも軽度と中・重度の方がおいでになり、そのケアの仕方は違います。そこで私の提案ですが、認知症高齢者専門の有料老人ホームもあっていいのではと思います。その中で軽度の方にはグループホームのようなユニットケアを、そして重度の方にはより症状に応じた専門的ケアを提供できるようにする。このようなコンセプトで認知症専門有料老人ホームを作る時代が来ている様に思います。

施設で認知症ケアを受けるメリットは、

- 1 人とのかわりあい生まれる
食事やレクリエーションでのかわりが脳への刺激となり、認知症の進行を防ぐことが期待されます。
- 2 総合的ケアを受けられる
食生活をはじめとして基本的な生活習慣で体の状態を改善できる総合的ケアが受けられます。
- 3 二十四時間ケアを受けられる
在宅介護で、二十四時間ケアを行うのはとても大変です。老人ホームでは常に状態確認してもらいながら、緊急時にも対応してくれるのも心強いです。
- 4 意欲を引き出すイベントやレクがある
以上のようなことで、認知症対応を専門とする有料老人ホームがあってもいいように思います。

桜の
広場

デイサービス八重桜 平城

【元日のカレンダー作り】

令和2年も、残りわずかとなり、来年1月のカレンダーを皆さまで作りました。モチーフは、もちろんお正月です。寒さ厳しい中テイルーム内の装飾や中庭の夜のイルミネーションが年の瀬の雰囲気を一層感じさせます。クリスマス前のサンタさんも楽しみですが、やはりお正月の方が待ち遠しいですね。羽子板、お多福、達磨さんなどの切り絵を貼りながら、皆さまお正月の思い出話を語り合われ、介護スタッフとの会話もはずみ、時代の移り変わりと共に若い世代のお正月に対する考えや、その楽しみ方も変わって来ている事を感じておられる様子でした。しかし、世代は違いますが幸せを願う心は同じです。来年の「抱負」、「願い」を書き添えて完成したカレンダーを手に、スタッフと写真撮影したり、多くの福が来る七転び八起きの「達磨さん」の様に辛抱強く頑張ってくださいました。最後は、「もうすぐ寝る」とお正月、「1年の初めの試して」との合唱で締めくくりました。



【一年を締めくくる餅つき】

一年を締めくくると、毎年恒例の餅つきが、今年も行われました。お正月の童謡のメロディが流れて雰囲気盛り上がる中、ホカホカに出来上がったもち米が日に移され、さあ、餅つきの始まりです。皆さまが、今年を振り返り、来る年への願いを込めての「ヨイシヨ」「ヨイシヨ」の掛け声に合わせ、杵のつく音が、会場全体に響き渡ります。11月の響きの中から来年の幸せが生まれればよいですね。つき上がったお餅をつまぐ丸めて、鏡餅や小餅に仕上げるコツをご利用者さまから教わりながら、介護スタッフたちも奮闘です。日本の伝統文化の1つでありながら、今では本当に見ることの少なくなつた餅つきの光景を昔ながらに再現するだけで、長年引き継がれてきた生活の知恵を古い世代から新しい世代へ継承させることにも役立ちます。正月を間近に、やっぱり、最後は、「1年の初めのために」との合唱で締めくくりました。



デイサービス八重桜 西奈良

【施設初めてのクリスマス演奏会】

西奈良館が開所して初めてのクリスマス会を行いました。メインイベントは女性職員によるクリスマス演奏会です。この日の為に仕事終わりに集まり演奏会の練習を重ねてきました。まずは、お揃いのアフロ姿で「笑いをいただいたあとは、ハンドベルで「きよしこの夜」を演奏し、クリスマスの雰囲気を作りました。次に定番曲の「シングルベル」と「赤鼻のトナカイ」をウクレレとキーボード、リコーダーの伴奏で、皆さまには歌詞カードを見ながら歌っていただきました。最終曲は、坂本九さんの「見上げてごらん夜の星を」でしっとりとした雰囲気演奏会を終えました。演奏会の後は、サンタの恰好をした男性職員が、白い袋を背負ってカタコトの英語とともに現れ、ご利用者さま一人ひとりにプレゼントをさせていただきました。ご利用者さまはプレゼントのコースターを持ったままカメフラに向かって笑顔を見せてくださいました。最後に元パティンエであった施設長手作りのフルーツサンドがご利用者さまに配られ皆さまは大喜び！「もったいなくて食べきれない」とフルーツサンドに飾ってある、イチゴを残さずとされる方もおられました。また、クリスマスケーキの盛り付けもお披露目され、「すごい！」とご利用者さまは目をキラキラさせておられました。皆さま満面の笑みで、楽しい初めてのクリスマス会となりました。



【皆さまと一緒に餅つき】

月日が経つのは早いもので、もう2020年も終わりが近づいてきたのですね。年末の定番企画と言えば、餅つきです！鏡餅に使用する分、その日のおやつに使用する分を皆さまと必死につきましました。杵を持ったご利用者さまは「やっぱり重たいね」と言いながらも、真剣な表情で杵を持ち上げておられました。もちろん、餅をつく男性職員は汗だくになりながら必死の表情。それを見たご利用者さまからの「頑張れー」という黄色い声援に全員が一つになったと感じられる瞬間でした。その日のおやつとしてお汁に入れてお出ししました。出来立てのお餅（誤嚥防止を考慮したとお糞をその中に入れて召し上がっていただきました。皆さま「満悦でおかわりをされる方が続出です。」「こんなんやたらいらいくらでも食べられるわ」と笑顔であっしやる方も中にはいらつしやりました。やっぱり出来立てのお餅は美味しいですね。今から来年の餅つきも楽しみにするわよとの、素晴らしい時間となりました。



デイサービス八重桜 朱雀

【皆さまと一緒にクリスマスの演奏会】

今年も、ジングルベルの響きと共にやってきましたクリスマス。幼き頃は靴下をぶら下げてプレゼントを待っていましたね。その時代は過ぎてても何故だか心がワクワクします。

ここ朱雀館のクリスマスは介護主任のチャレンジシリーズで幕開けしました。今年もテーブルクロス引きに挑戦、机にテーブルクロスを掛けてその上に食器を何点が置きます。そして合図でテーブルクロスをサッと引くと、机の上には食器全てが残るはず。練習ではコップを五個割ったと自慢していましたが、本番ではどうなったでしょう？結果はまさかの大成功で食器は一つも割れずに机に並んでいました。次はご利用者さまによるハンドベルの演奏です。スタッフの指揮でご利用者さまは手持ちのハンドベルを鳴らしていきます。綺麗な「きよしこの夜のメロディー」が紡がれてきました。何回か練習されたようで、流れるような演奏に拍手喝采の嵐。そして最後はサンタさんによるクリスマスプレゼント。今回は手作りのコースターです。

外の寒さと違い朱雀館は笑いと熱気と優しさに包まれたひと時が過ぎていきました。



【杵の餅つき大会で大歓声】

朱雀館の毎年の恒例行事である餅つき大会が行われました。

餅つきと聞くと「年末やな〜」「もうすぐ新年迎えるんやな〜」と皆さまが口を揃えてお話をされていました。

今年は、新型コロナウイルス禍の影響により例年以上に感染症対策が必要となつてしまい、普段ならばご利用者さまにもお餅をついてもいい、つきたてのお餅を手慣れた手つきで丸めてもらつてもらう作業をお手伝いしていただいていたのですが、今年は若輩者の私たちが職員が皆さまの監督や掛け声の指導のもとに餅つきを進めさせてもらいました。餅をついた時の杵の音に皆さまが「おおおおお」と言いながら、もち米が段々お餅になっていくのを楽しそうに見てくださっている姿に職員もその歓声に力付けされるかのようについに「よししょ〜」と大きな声で一生懸命お餅をついていました。



餅つきは一人では出来ないのです、皆の連帯感を高め喜びを分かち合うという社会的意義があるのですが、まさにそういつ時間を過ごすことができました。大きな鏡餅も作り、新年を気持ちよく迎えたと思います。

デイサービス八重桜 押熊

【師走を迎える習字教室】

毎月開催されている習字教室です。字の上手い下手を競うのではなく、幼い頃より慣れ親しんできた習字・書道、日本人としての墨の文化を感じていただき、ご利用者さまに毎月変わるお手本をもとに少しでも季節の移ろいを感じていただくように書いていただいています。

今月のお手本は、「冬至」「白鳥」「忘年会」「聖夜」「師走」の5つでしたが、いずれも冬や年の暮れを感じさせるお題をご用意させていただきました。皆さまは黙々と集中して筆を走らせておられますが、ひとしきり書き終えるとやはり周りのご利用者さまの出来ばえが気になるのか、チラリちらりと左右のご利用者さまを覗き込んで「ア、ア、ア、上手いこと書けたやないの」「ア、ア、ア、上手いやないの」とお互いに評価し合っておられます。中には自信を持って見せてくださるご利用者さまもおられ、上手い下手よりも「字は体を表すが如く」その人の人柄が出ますね。



【皆さまがハンドベルで楽しめたクリスマス会】

初雪の便りがあちらこちらで聞こえてくるとともに、押熊館に今年もクリスマス会の季節がやって参りました。

今年のクリスマス会は一押し企画として職員による「きよしこの夜」のハンドベル演奏を行いました。忙しい日常業務の合間を縫って練習し本番となりましたが、ご利用者さまも初めて聞く聖なる音色に耳を澄まされ、職員も練習の成果を披露することができました。そのあと職員キーボードの演奏による「赤鼻のトナカイ」「あわてんぼうのサンタクロース」などをご利用者さまと職員とで合唱し、又サンタさんとトナカイさんの衣装を着た職員が袋の中からプレゼントをお渡してサンタさんと記念撮影。このプレゼントは同じ八重桜グループの八重の家の入居者様が心を込めて作られた手作りコースターをお配りしました。色とりどりのコースターにご利用者さまも「まあきれいな大事に使わせてもらおうわ」と仰っていただきました。



最後に皆さまにケーキを提供させていただき聖なる一日を締めくくりました。

「和み」

上門 寿々香



四月に入社して春夏秋冬を迎えることができ、職場の季節感と共に仕事にもようやく慣れてきたような気がしています。これも職場の皆さまに温かく見守って、ご支援いただきましたことに深く感謝しています。

いまだに利用者の方とのコミュニケーションの難しさを感じながら毎日を送っています。特に認知症の重い方への接し方は、自分の想像を越えるものがあり、頭の中で混乱しながらも冷静に対応している自分があるようで、これも経験の積み重ねかな？と考えることもあります。介護職に関する知識もまだまだ未熟だと感じています。介護職に就いてから二十年になりますが、家族の協力、支援もあり、今日まで続けてくることができ、改めて家族にも感謝しています。自分の体力が続く限りは、この仕事を続けて行きたいと思っています。

令和三年四月には七十歳定年法も施行されると知り、高齢で仕事をされる方も増えるでしょうし、介護を必要とされる方の高齢化も進んでいくんだらうな？と思っています。新型コロナウイルスへの感染対策に配慮しながら介護職の難しさも増していくことに対応しなければいけないように感じています。

日本的小伙伴们へ、

手を携えてこの闘いに勝ちましょう！

地震も、台風も、台風の協力で乗り越えてきました。

だからこそ、勝ってまた会いましょう！

遊歩道のこころ

俳句教室発表句

(敬称を略します)

お年玉 今年も万札 とんでゆく

中川 春子

お孫さんの喜ぶ笑顔が楽しみですね、おばあちゃんファイト!!

今年も 健康祈願 七草粥

菅原 たけの

元気で健康が一番ですね

福笑い 家族団らん 幸せだ

中嶋 かほる

家族皆さんで福笑いを楽しんでおられる姿が浮かびます

福袋 年に一度の お楽しみ

野崎 絹子

福袋は、何が入っているのかワクワクしますね

いつの日か 餅をたらふく 食べたいな

明星 明子

美味しいお餅を、喉に詰めないように我慢するのは辛いですね

大晦日 除夜の鐘聞きつつ 新年が

倉司 壽代

静かに新しい年を迎える様子が伝わってきます

霜柱 さくさく歩む 元氣よく

大城 聖三

霜柱を足で踏み歩く感触が楽しいですね

大晦日 皆で追われる おせち料理

古仲 はつ江

新年を迎える慌ただしいお台所が浮かびますね

We can win again!

We will meet again!

2020年4月7日 蔡英文 Twitter

馳せ走る 食の匠 のひとりごと

コロナ禍のおせち

西 勝康

明けましておめでとございます。本年もよろしくお付き合いのほどお願い申し上げます。

さて今年の正月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために帰省や年末年始の外出自粛要請があるなか、外でお金を使う機会が少なくなる分、おせち料理などでより豪華にという人が多いそうです。

そして、おせち料理といえは大きめの重箱をみんなでつくイメージがありますが、今年は感染防止のため取り分け不要の個食おせちが人気だそうです。この方法はアフターコロナでも定着しそうな予感がするのは私だけでしょうか。一人分だと盛り込みも簡単になるし、冷蔵庫にも入れやすいし、何よりも元旦の祝いの食事の後ろにも個別に保存して後から酒の肴にすることもできますから、何かと現代生活には便利ではないでしょうか。呑んべえの発想でした 😊

八重の家通信 8

西 勝康

八重の家のご入居の皆さま、明けましておめでとございます。今までは違った想いで迎えられた年明けかと思えます。ご入居以来慣れない共同生活にとまどわれたり、窮屈な思いをされたりとストレスの多い入居初年度だったと思います。集合住宅での共同生活に早々に馴染まれた方、またなかなかそうはいかない方とさまざまの生活の質は豊かになると思います。

今年も、新型コロナウイルス対策のワチン接種も始まります。もう少しの辛抱で外出制限も緩和されるでしょうし、そうすれば屋外イベント、日頃の買い物と活気のある生活を取り戻せるでしょう。その他のサークル活動も幅広く取り組めるように私たちもサポートしたいと考えています。

八重の家の皆さまが大家族のように仲良く助け合える、明るく楽しい住まいになりますように、そして何よりお元氣にお過ごしいただきますよう祈念致します。